

令和8年度 学校経営方針（1学期）

佐世保市立大久保小学校

校長 山口 伸 一 郎

1 教育方針

日本国憲法・教育基本法・学校教育法・学習指導要領にのっとり、長崎県・佐世保市の教育方針にもとづき、本校の児童や地域社会の実態及び保護者や時代の要請を踏まえ、「自らの将来に夢やあこがれを抱き、志の実現に向けて努力する子ども」を育て、子ども・教師・保護者・地域すべての心がこだまし合う学校づくりをめざす。

大久保小学校の子どもたち一人一人がかがやき、いのちを大切にするとともに、心身ともに健やかに成長し、自分の未来を切り拓くための生きる力を育むことができるよう、全教職員が教育者としての使命感と責任感を自覚し、人格と指導力の向上に努め、創意を結集して、教育目標具現化のために一致団結して職責を全うする。

人間尊重の精神に徹し、教師と児童の信頼を築き、ともに人間性の高揚をめざし、心身を鍛え、知性を磨き、豊かな心を育み、自主・創造の精神に満ちた実践力のある子どもを育てる。

2 教育目標

秩序と活気ある子どもの育成 ～落ち着いた心と態度で生き生きと活動する子ども～

3 めざす児童像

- 「か」 賢い子（深い思考力、正しい判断力、豊かな表現力、生きてはたらく知識と技能をもつ子）
- 「が」 がんばる子（将来の夢や希望をもつ子、向上心と耐性がある子、人間性豊かな子）
- 「や」 優しい子（思いやりがある子、生命と人権を大切にする子、コミュニケーション能力がある子）
- 「き」 協力する子（協働する子、あいさつする子、地域の活動に参加する子）

4 めざす教師像

- ① 愛情あふれる教師（子どもと正面から向かい合い、伸ばそうと努力する教師）
- ② 互いに磨き合う教師（一人一人が積極的に学校運営に参画し、高め合う教師）
- ③ 信頼される教師（何事にも真摯に取り組み、最善を尽くす教師）

5 コミュニティ・スクール『共育目標』（徳育目標）

「自分からすすんで 元気にさわやかなあいさつをしよう」

6 学校経営方針（重点目標と具現化の方策）

スローガン 「 凡事徹底 」

（ 当たり前のことを徹底してやり通す！ ）

- 人間関係力 他者を理解し、思いやりのある子どもの育成
- 考える力 目標をもち、進んで粘り強く学習に取り組む子どもの育成
- 基礎体力（耐力） 心と身体を鍛え、困難を乗り越えようとする力をもった子どもの育成

※ 1学期の重点努力事項…**出会いを大切にし、新学年での意欲を高める**

【集団や学びの土台を作る1学期】

- 1 子どもを知り、子どもの状況を把握し、保護者との信頼関係を構築する。
- 2 集団や学びの土台となる、集団生活や学習のルールを定着させる。
- 3 相手のことを考えた言葉づかいができるよう指導する。

<具現化の方策>

(1) 秩序と活気ある子どもの育成を推進する

心のふれあいを大切にし、個の理解に努め、児童の人格（心）を育てる。

- ① **「自分から進んで、元気にさわやかなあいさつ」を推進する。（「ありがとう」の励行）**
- ② 基本的生活習慣の定着を図る。**（心を整え、生活・学習への構えをつくる）**
（「はきものを揃える」、「整理整頓」、「節度ある廊下歩行」）…4月（1か月）の指導が勝負！
- ③ 礼儀（言葉遣い、返事）、節度、感謝を重んじ、けじめのある生活態度を育てる。

(2) みんなで支え合う学年・学級づくりを推進する

学校教育目標を受けた、学級目標（目指す学級の姿）を設定し、その具現化に向けた実践に取り組む。

- ① 子どもと教師、子ども相互の温かい人間関係と信頼関係をつくる（エンカウンター等の実践）。
- ② ふれあい、励まし合い、いじめのない集団づくりに努める。（縦割り・集会活動等の充実）
○様々な学習活動や行事等を通して、感謝の気持ちとともに「思いやり」・「仲間意識」・「相互協力」等の意識を育てる。
- ③ 子ども主体の教育活動を推進し、めざす子どもの姿を保護者・子どもにわかりやすく説明する。（家庭訪問や懇談会、学級だより等の活用）

(3) 確かな学力の向上をめざし、みんなで学び合う授業づくりを推進する。

（学力の育成に係る3つの視点「学習意欲」、「話し合い活動の充実」、「課題解決の意欲」の市平均値以上をめざす。）

子どもの可能性を信じ、**「学び方を身につけさせる」**ことで子どもの「主体的に学ぶ力」を育てる。

- ① 基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の育成に努める（鍛える）。
- ② 教科の特質に応じた「言語活動」の充実を図るとともに、コミュニケーション能力を高める。
- ③ 保護者との連携を図り、**家庭学習の充実・基本的生活習慣の定着**に努める。
- ④ 校内研修を中心に指導力向上を図ることで、**子どもが「できた」、「わかった」を味わうことのできる授業の実現**をめざし、学力向上に努める。**（互見授業の活性化）**

○昨年度の指導の振り返り及び学力検査の分析等を生かし、子どもたちの実態をとらえた指導の実践をめざす。

- ⑤ タブレットを活用した、ICT教育の一層の推進（授業、家庭学習等、様々な教育活動への積極的な活用にチャレンジする）…市教育センター、ICT支援員等と協力した授業改善、ミライシードの積極的な活用

(4) 道徳教育・人権教育の充実・強化を図る（**体罰や暴言のない、「言葉」を大切にした教育**）

人間の生き方についての学習を深め、子どもの心を育てる。

- ① 道徳教育の推進
○「特別の教科 道徳」における価値の追求と自己の振り返りをとおして、道徳的实践力の深化・統合を図るとともに、全教育活動をとおして子どもたちの道徳性を養う。
- ② 人権教育の推進
○「人を人として敬う（大切にすること）」ことは、人間にとってとても大切なことであるという認識のもと、基本的人権が保障された教育活動の徹底を図る。
- ③ 生徒指導の充実
○みんなが楽しく、気持ちよく生活できるよう、規律やきまりの徹底を図る。
○子どもの悩みや不安、問題行動の早期発見に努め、組織として対応する。（協働性の発揮）
（「報告・連絡・相談」の徹底、「保護者との直接的対話」を大切に）
○いじめは、いつ、どこにでも起こり得るという認識のもと、いじめの早期発見に努め、被害児童及び保護者に寄り添いながら組織として対応し、いじめの解消に努める。

- (5) 個に応じた支援及び特別支援教育の充実を図る
心のふれあいを重視した教育活動を展開する。
- ① 家庭や関係機関（CA・SSW等）との連携を深め、個々の実態把握とよりよい支援に努める。
 - ② 一人一人に寄り添った指導及びチームでの支援の充実・強化を図る。
※ 輝きっ子支援委員会・就学支援委員会において、児童の実態や困り感、問題行動等の情報共有を図り、共通理解のもと全職員で指導支援を行う。（「全児童を全教職員で指導する」意識をもつ。）
- (6) 読書活動を推進する
ことばの力を育み、心を耕す読書活動を推進する。 → 「読解力」及び「書く力」の向上
- ① 学校司書と連携し、読書環境の整備充実にも努める。（図書館の学習情報センターとしての活用を推進する）
 - ② 豊かな心を育む意図的・計画的な読書活動の展開にも努める。（発達段階に則した本との出会い）
 - ③ 意欲的な読書活動の推進をめざし、家庭・地域と連携を図りながら、啓発や称賛にも努める。
- (7) 保健安全教育の充実・強化を図る
心身の健康についての関心を高め、児童の自己管理能力を育てる。
- ① 日常の安全点検、健康・安全指導を充実し、感染症・生活事故の防止にも努める。
 - ② 体育や休み時間、諸活動を通して自らを鍛え、体位・体力の向上と健康増進を図る。
 - ③ 体力調査の結果を指導に生かす。
 - ④ 基本的生活習慣について、家庭との情報共有にも努める。（ゲーム・SNS関係等）
 - ⑤ 日々の給食指導や授業を通して食への関心を高め、望ましい食習慣を形成するとともに、食育の充実を図る。（食アレルギー対応確認）
- (8) 安全管理・危機管理の徹底と教育環境の整備
子どもも大人も安心して学校生活を送ることができる教育環境づくりをめざす。
- ① 危機管理の徹底
○子どものいのちを守ることが、危機管理の最優先事項であるという認識のもと、危機管理マニュアルの共通理解や安全点検の徹底を図る。（違和感を大事にする）
 - ② 教育環境の整備
○子どもが安心して学習活動に取り組むことができるよう、教室や校舎内外の環境整備に努める。
○正しい言葉遣いやあいさつ、敬称等の言語環境整備に努める。
- (9) 地域とともにある学校づくり（ふるさと教育）を推進する
学校・家庭・地域が連携・協働した取組のさらなる充実を図るとともに、地域とともにある学校づくりをより一層進め、学校の伝統と地域の特性を生かしたコミュニティ・スクールの推進・充実をめざす。
- ① 「生活科」及び「総合的な学習の時間」を中心に、地域の「ひと・こと・もの」と連携した**体験活動・探究的な活動の充実**を図る。（「総合的な学習の時間」のカリキュラム整備）
○外部講師や関係機関との連携を図り、学習の充実に努める。
 - ② 伝統の継承と新たな文化の創造に努める。（地域を誇りに思う子どもを育てる）
 - ③ 地域に飛び出し、地域を呼び込み、開かれた学校づくりに努める。
（保育園、幼稚園、中学校、高校との連携）
- (10) 生き方を学ぶキャリア教育の推進（様々な外部講師及びキャリアパスポートの積極的な活用）
夢をもちその実現に向けて挑戦する向上心、努力する忍耐力を育てる。
- ① 人との出会いを取り入れた学習活動を行い、夢やあこがれをもたせる。（様々な体験）
 - ② 目の前の困難にしっかりと向き合い、志の実現に向けて挑戦しようとする態度を育てる。
※ 「**目標に向かって、あきらめずに努力する姿勢を大切にする**」（耐力の向上）
 - ③ 目標の実現に努め、継続することの大切さ、達成感を味わう体験を仕組む。

(11) 教職員が働きやすい、働きがいのある職場づくりに努める。

- ① 教職員一人一人が、それぞれの立場でそれぞれの役割を担っているからこそ、子どもたちを育てることができることを共通認識するとともに、全職員で子どもの成長を喜び合える職場を目指す。
- ② 協働的な関わりを充実させ、教育の質の向上を図りながら、働きやすい職場づくりに向けて業務改善に努める。
- ③ ワークライフバランスを実現し、県指針「1か月45時間、年間360時間の超勤」“0人”をめざす。

教育とは「人を育てる」夢仕事。教育とはいきつくところは「人間追求」。だからこそ、『やる気』・『根気』・『元気』が必要であり、子どもたちの成長を実感できた時の喜びも大きい。

学校は一人ひとりの教師の力の総結集で動く**組織体**。『一期一会』。子どもたちも教師も、大久保小学校で出会ったことに感謝し、ともに汗し、ともに笑い、子どもに感動できる柔らかい心を持ちながら、全職員の力で子どもも教師も輝く大久保小学校の経営にあたりたい。そして、家庭の協力はもちろん、地域の力も借りながら、地域に生きる学校でありたいと願う。

「人は人を浴びて人になる」、「人は自然を浴びて人になる」。ふるさとの「ひと・こと・もの」に感謝し、私たち教職員の力を総結集して、大久保小学校ならではの学校づくりを行いましょう！